


労働環境改善スケジュール

分野	期	作業内容	これまで1ヶ月の動きと今後6ヶ月の予定	4月	5月					6月	7月	8月	9月	10月	11月以降	備考			
				24	1	8	15	22	29	上	中	下	上	中	下		上	中	下
防護装備	1	防護装備の適正化検討 ※管理対象区域を3つのゾーンに区分し、各区分に応じた防護装備を着用することで、作業時の負担軽減による作業性の向上を図る	<ul style="list-style-type: none"> (実績) <ul style="list-style-type: none"> DS2マスク不要エリアの拡大の運用 全面マスク用アノラックの導入 (予定) <ul style="list-style-type: none"> DS2マスク不要エリアの拡大の運用 全面マスク用アノラックの導入 	検討・設計	全面マスク用アノラックの導入					仕様確定・発注手続き		新規追加					<ul style="list-style-type: none"> ※改良型全面マスク用アノラック ①アノラックの吸気フィルタ部を全ての全面マスクに適用できる形状に改良(拡大写真) ②素材の改良箇所 		
				現場作業	試作品改良・試着テスト4回目	全面マスク用アノラックの使用					DS2マスク不要エリアの拡大の運用			製作期間					
				現場作業															
人間工学	2	ヒューマンエラー発生防止	<ul style="list-style-type: none"> (実績) <ul style="list-style-type: none"> 安全衛生推進協議会の開催：協力企業に対するヒューマンエラー発生防止の意識向上と基本動作の徹底等 (予定) <ul style="list-style-type: none"> 安全衛生推進協議会の開催：協力企業に対するヒューマンエラー発生防止の意識向上と基本動作の徹底等 	現場作業	2021年度のヒューマンエラー発生状況及びヒューマンパフォーマンスツールの活用について説明(5/12)					協力企業に対するヒューマンエラー発生防止の意識向上と基本動作の徹底等							<ul style="list-style-type: none"> 四半期毎に実施している不適合やヒューマンエラーの分析結果を踏まえ、安全衛生推進協議会にて四半期に一回程度、協力企業に対しヒューマンエラー発生防止の意識向上と基本動作の徹底等を啓発予定 		
				現場作業															
労働衛生	3	重傷災害撲滅、全災害発生状況の把握	<ul style="list-style-type: none"> (実績) <ul style="list-style-type: none"> 協力企業との情報共有、安全施策の検討・評価 安全衛生推進協議会の開催：災害事例等の再発防止対策の周知等 作業毎の安全施策の実施(TBM-KY等) 熱中症予防対策の実施(4~10月) 2021年度災害発生状況、2022年度安全活動計画(4/27公表) (予定) <ul style="list-style-type: none"> 協力企業との情報共有、安全施策の検討・評価 安全衛生推進協議会の開催：災害事例等の再発防止対策の周知等 作業毎の安全施策の実施(TBM-KY等) 熱中症予防対策の実施(4~10月) 	現場作業	▼2021年度災害発生状況、2022年度安全活動計画(4/27公表) 情報共有、安全施策の検討・評価					熱中症予防対策の実施(4~10月)									
				現場作業															
労働環境	4	長期健康管理の実施	<ul style="list-style-type: none"> (実績) <ul style="list-style-type: none"> 検査対象者・医療機関等からの問い合わせ対応及び検査費用の精算手続き (予定) <ul style="list-style-type: none"> 検査対象者・医療機関等からの問い合わせ対応及び検査費用の精算手続き 	現場作業	健康相談受付					【検査受診期間】検査対象者・医療機関等からの問い合わせ対応及び検査費用精算手続き							<ul style="list-style-type: none"> (継続実施) 		
				現場作業															
医師確保	5	継続的な医療職の確保と患者搬送の迅速化	<ul style="list-style-type: none"> (実績) <ul style="list-style-type: none"> 1F救急医療室の2022年7月までの医師確保完了(固定医師1名+0-7ヶ月支援医師) (予定) <ul style="list-style-type: none"> 1F救急医療室の8~10月の勤務医師調整 1F救急医療室の11~1月の勤務医師調整 	検討・設計	1F救急医療室7月までの医師確保完了					1F救急医療室の8~10月の勤務医師調整									
				現場作業															
感染症対策	6	感染症対策の実施	<ul style="list-style-type: none"> (実績) <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症対策の実施 (予定) <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症対策の実施 	現場作業	新型コロナウイルス感染症対策の実施					新型コロナウイルス感染症対策の実施							<ul style="list-style-type: none"> (継続実施) 2022年5月25日15時現在、①福島第一原子力発電所で働く社員及び協力企業作業員等において、新型コロナウイルス累計感染者数は、319名(社員54名、派遣社員1名、協力企業作業員262名、取引先企業従業員2名)、うち、2022年1月以降の累計感染者数は、215名(社員44名、協力企業作業員170名、取引先企業従業員1名) ②新型コロナウイルスワクチン3回目の職域接種(2022年3月28日より実施)については、総数2,743名(社員666名、協力企業作業員2,077名)が実施済視察者の受け入れは、3月22日より再開 		
				現場作業															
労働環境	7	作業員の確保状況と地元雇用率の実態把握	<ul style="list-style-type: none"> (実績) <ul style="list-style-type: none"> 作業員の確保状況と地元雇用率についての調査・集計 (予定) <ul style="list-style-type: none"> 作業員の確保状況と地元雇用率についての調査・集計 	検討・設計	▼作業員の確保状況調査依頼					作業員の確保状況集約									
				現場作業															
労働環境	8	労働環境・就労実態に関する企業との取り組み	<ul style="list-style-type: none"> (実績) <ul style="list-style-type: none"> 労働環境・就労実態に関する意見交換及び実態把握 意見交換及び実態把握に基づく解決策の検討・実施・結果のフィードバック 相談窓口への連絡(処遇・労働条件等)への対応 (予定) <ul style="list-style-type: none"> 労働環境・就労実態に関する意見交換及び実態把握 意見交換及び実態把握に基づく解決策の検討・実施・結果のフィードバック 相談窓口への連絡(処遇・労働条件等)への対応 	検討・設計	労働環境・就労実態に関する意見交換及び実態把握、解決策の検討・実施・結果のフィードバック					労働環境・就労実態に関する意見交換及び実態把握、解決策の検討・実施・結果のフィードバック							<ul style="list-style-type: none"> (継続実施) 		
				現場作業															

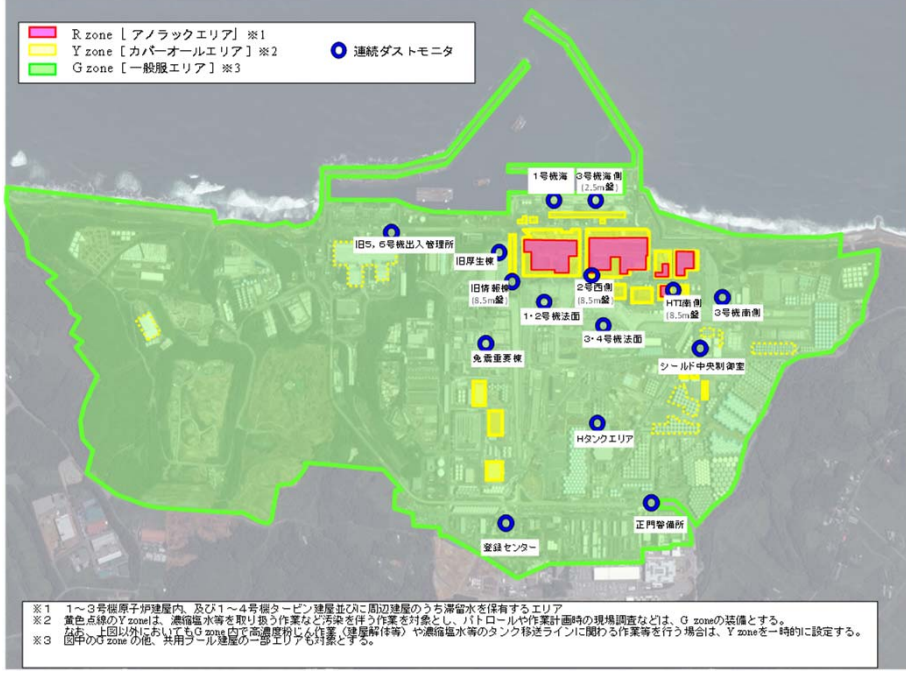
廃炉中長期実行プラン2022

年度	2021(実績)	2022	2023	2024	2027	2033(年)	
その他		管理対象区域内の企業種整備					

<凡例>

- ▶ : 作業の期間
- ◀ : 変更が見込まれる期間
- : 工程間の関連
- ▶ : 追加した工程
- ◀ : 変更した工程

注：今後の検討に応じて、記載内容には変更があり得る

分野名	括弧	作業内容	これまで1ヶ月の動きと今後6ヶ月の予定		4月		5月				6月			7月	8月	9月	10月	11月以降	備考	
			24	1	8	15	22	29	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上		中
労働環境改善			 <p> R zone [アノラックエリア] ※1 Y zone [カバーオールエリア] ※2 G zone [一般服エリア] ※3 </p> <p>● 連続ダストモニタ</p> <p> ※1 1～3号機原子炉建屋内、及び1～4号機タービン建屋並びに周辺建屋のうち湯留水を保有するエリア ※2 黄色点線のY zoneは、濃縮塩水等を取り扱う作業など汚染を伴う作業を対象とし、111ホールや作業計画時の現場調査などは、G zoneの範囲とする。 なお、上記以外においてもG zone (内を高濃度汚損した作業(建屋解体等)や濃縮塩水等のタンク移送ラインに隣接する作業を行う場合は、Y zoneを一時的に設定する。 ※3 図中のG zoneの他、共用ホール建屋の一部エリアも対象とする。 </p>																	

管理対象区域の運用区分 レイアウト

提供：日本スペースイメージング、©DigitalGlobe